

名張市史

だより

NABARI HISTORY LETTER No. 16
平成31年2月25日

●編集発行●
名張市郷土資料館(教育委員会生涯学習室)
〒518・0734 名張市安部田2270番地
名張錦生ふるさとパーク内
☎0595・64・7890

名張市の誕生と

北田藤太郎氏



北田藤太郎氏(1906年-1985年)

昭和29年4月初代名張市長に就任。その後、昭和49年4月まで5期20年務めました。名張市の基礎を築いた功績を称え、昭和51年に名張市名誉市民の称号を贈っています。

名張市は昭和29年3月31日、名張町、箕曲村、国津村、滝川村の1町3村が合併し、誕生しました。今回は、名張市の産みの親であり育ての親でもある北田藤太郎氏について紹介します。

初代名張市長は、名張町長を務めた北田氏が無投票で就任し、5期20年務めました。過去には名張町議会議員も務めるなど、長きに渡って名張市の発展に尽力しました。

観光光園都市の実現を目指した北田氏は、新市政の根幹に4大事業(青蓮寺ダムの建設、桔梗が丘団地の開発、国道165号の改修、赤目四十八滝・香落溪などへの観光道路の開発)を打ち出し、いずれも見事成し得ました。とは言え、輝かしいはずの新市政は順風満帆だったわけではありませんでした。



名張市役所の看板を掲げる北田藤太郎氏

市長に就任した年の12月24日、年の瀬も迫るこの時期に、当時の名張市役所で原因不明の火災が発生し、その責任を取るべく市議会へ進退伺を提出しました。

「これで市長としてやっていくのだろうか」市長就任から1年も経たず自信を喪失してしまい、ストレスからか胃がいれんを発症し、昼食をラムネ2本で済ませることもありました。

また、名張市は発足当初から、名張町時代の負債や合併時の条件から財政難に陥っており、その精算に追われていました。昭和31年、北田氏は地方公共団体の財政を再建させるため、地方財政再建促進特別措置法の適用を受けることを決意。財政再建を貫行し、昭和36年には適用解除となり、この難局を乗り切りました。

そんな中でも信念のもと、4大事業の達成に向けて上水道・ガスなどインフラを整備、陳情や視察のために全国を駆け回りました。その支えには、実母の遺訓「名張で一番偉い人になれ」という言葉と、妻が家業(旅館業)に邁進す

る姿がありました。ときにボパイがほうれん草を食べて筋骨隆々になる姿を見て自らを奮い立たせることもあったようです。

昭和34年の伊勢湾台風では、市内の被災者は1万5千人以上(当時の人口は約3万人)、被害総額も30億円(当時)を超えるなど、未曾有の被害を受け、復旧に全身全霊を掛けて臨みました。二度と市民をこのような目に遭わせてはならないと4大事業の一つでもある青蓮寺ダムの建設に取り組み、地権者の説得には「人を動かすのは誠意だけだ」と自ら奔走し、昭和45年に竣工しました。



造成中の青蓮寺ダム(昭和41年ごろ)

当時消防長の職も兼ねていたため、常に出動できるような有事に備えていました。加えて、自分の事は一切せずに人の事はかなり大切にす。あまり、市長室へは直談判の来客が絶えず、また、プライベートの時間はほとんど無かったそうです。

そんな真面目一辺倒に見える北田氏ですが、一方で、食べ物をよくこぼすため、新調したスーツを着て食事をするときは妻から強制的にエプロンを付けさせられ、自身の長女が参加した成人式の挨拶では「挨拶なんか誰も聞いてないから短くして、と娘から言われましたので短くします。皆さんおめでと、これからも頑張ってください」と済ませるなど「面白い」「憎めない人」だったといえます。

北田氏は晩年「長い年月にわたる全市民の支持と協力があつたから」と感謝の言葉を残しました。北田氏が名張市長を勇退してから45年、名張市は社会や時代の流れとともに変化・発展し、今年3月で市制65周年を迎えようとしています。

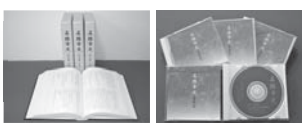
昭和44年、63歳のときに身体の不調を訴え、昭和48年の秋に6期目への不出馬を表明し、翌年4月、68歳で勇退することになります。勇退の翌々年の昭和51年1月、株式会社カキタの創業者高北新治郎氏に続く第2号の名張市名誉市民となりました。

全力疾走し続けた北田氏は、自宅に戻ってから寝るとき以外はダブルのスーツを着用し、

本稿を草するにあたり、多岐にわたるご支援をいただきました北田藤太郎氏の御令嬢に深謝いたします。

参考図書
ある人間史―北田藤太郎―
(中貞夫・1991)

第1巻「名張市史 資料編 考古」
第2巻「名張市史 資料編 古代」
書籍版…5,000円、CD-ROM版…1,500円



「おきつもの名張今と昔」
800円



好評、販売中。
販売場所
郷土資料館または、
市役所3階生涯学習室